

議題（２）駅周辺のまちづくりのあり方について

1. 箕面市の将来都市像

「第五次箕面市総合計画」において、「ひとが元気 まちが元気 やまが元気～みんなでつくる『箕面のあした』～」を実現するため、以下の3つの都市イメージが示されている。

- 「箕面の魅力アップ」に向けた都市イメージ
- 「若い世代の流入と住民の定着」に向けた都市イメージ
- 「地域資源の増加」に向けた都市イメージ

これらの都市イメージにそったまちづくりを進めていくことが求められている。

ひとが元気 まちが元気 やまが元気 ～みんなでつくる「箕面のあした」～

「ひとが元気」・・・一人ひとりがそれぞれのスタイルで、健康で安心して心豊かに暮らし、高齢者と若い世代の交流など市民がお互いにかかわりながら、元気に生活するまち

「まちが元気」・・・道路や公共施設が整備され、医療、商業、サービス業など市民の生活に密着した機能が確立し、暮らしを支えているまち

「やまが元気」・・・みどり豊かな自然を守り、人と自然がふれあい共生しているまち



■ 「箕面の魅力アップ」に向けた都市イメージ

- ☆ みどりあふれる住宅都市・・・山なみ景観やまちなかのみどりの保全
- ☆ 子育てしやすく教育環境が整った都市・・・保育所待機児童の解消、子育て支援
- ☆ 公共交通による移動が便利な都市・・・鉄道の延伸、東西路線バス路線網の充実

■ 「若い世代の流入と住民の定着」に向けた都市イメージ

- ☆ 働く世代や学ぶ世代が暮らしやすい都市
・・・公共交通の充実による通勤・通学時の利便性向上
- ☆ 活力のあるにぎやかな都市・・・公共交通の充実による観光・商業の活性化
- ☆ 人と環境にやさしい都市・・・公共交通の充実による移動の円滑化
- ☆ 多文化共生のまち・・・言葉の壁の解消や相談支援活動

■ 「地域資源の増加」に向けた都市イメージ

- ☆ 地域資源を守り育て、生み出す都市・・・新たな交通体系とまちの整備の相乗効果
- ☆ みどりに包まれた商業・生活圏をもつ希少価値のある都市
・・・公共交通の充実による交流や活性化（かやの中央地区）
- ☆ 新産業を創り出す都市・・・鉄道の延伸に合わせたまちの転換

出典：第五次箕面市総合計画

2. (仮称) 新箕面駅周辺に求められる役割

箕面市の将来像を実現するため、市域における将来都市構造が設定されている。将来都市構造において、(仮称) 新箕面駅周辺では、以下のようなまちづくりを進めることが求められている。

- 都市拠点として設定されており、箕面市の活力ある都市活動の中心地としての役割
- 広域都市軸が交差する北大阪の「交通の要衝」としての役割
- 付近に立地する市街地ゾーンや農住ゾーンと連携することにより、箕面市の魅力を上昇させる役割

【都市構造イメージ】

これまでのまちづくりの過程で形成されてきた「都市構造」「個性」を前提とした土地利用を進めることが必要

土地利用の方向性を示す「ゾーニング」の実施

都市の骨格となる「都市軸」や、都市軸の結節点を中心に都市機能が集積する「拠点」を設定

【ゾーニング（土地利用区分）】

- 自然保全ゾーン：自然環境の保全を図る
- 市街地ゾーン：良好な居住環境の保全・創造を図る
- 農住ゾーン：農地と一体となった古くからの集落地
- 新市街地ゾーン：彩都や箕面森町のような大規模開発地

【都市軸】

- 国土軸
広域的な産業振興・文化交流に寄与する
- 広域都市軸
都市型サービス施設の集積によって市民生活を支える
- 生活都市軸
地域密着型サービス施設の集積によって市民生活の拠り所となる

【拠点】

- 都市拠点：箕面市の中心核
- 地域生活拠点：市民の日常生活を支える

都市構造のイメージ図

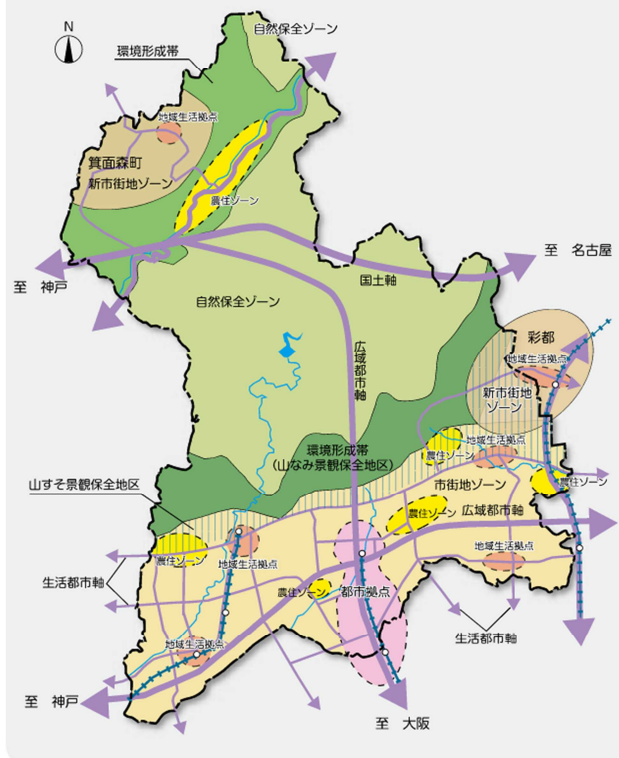


図 将来の都市構造イメージ

資料：第五次箕面市総合計画

3. 駅周辺のまちづくりのあり方

【箕面市の将来都市像】

「ひとが元気 まちが元気 やまが元気～みんなでつくる『箕面のあした』～」

【将来都市像実現するための、3つの都市イメージ】

- 「箕面の魅力アップ」に向けた都市イメージ
- 「若い世代の流入と住民の定着」に向けた都市イメージ
- 「地域資源の増加」に向けた都市イメージ



【（仮称）新箕面駅周辺に求められる役割】

- 都市拠点として設定されており、箕面市の活力ある都市活動の中心地としての役割
- 広域都市軸が交差する北大阪の「交通の要衝」としての役割
- 付近に立地する市街地ゾーンや農住ゾーンと連携することにより、まちの魅力を上昇させる役割



【駅周辺のまちづくりのあり方】

- 『みず・みどりにあふれ、箕面ブランドを支えるにぎわいのあるまち』を目指す。
- 市街地の北側に連なる北摂山系の山なみと両翼に広がる豊かな田園風景との共存を目指す。
- 市街地が延々と続く大阪都心部との明確な差別化をはかり、鉄軌道の利便性、駅周辺の商業集積や円滑で安全な道路交通と、長閑な緑の風景が包む穏やかな住環境との共存を図る。



図 （仮称）新箕面駅の整備イメージ

《参考》箕面市の現況（箕面市総合都市交通戦略）

1. 地勢

【全域】

- 箕面市は大阪府の北西部にあたり、東は茨木市、西は池田市、南は豊中市・吹田市、北は豊能町・兵庫県川西市と隣接している。
- 大阪都心からは20km圏に位置し、市の中心部から10km圏には大阪空港、新大阪駅、高速道路（名神、中国道、近畿道）が存在する。さらには、平成28年（2016年）に、新名神高速道路が開通予定である。
- 市域は東西7.1km、南北約11.7km、面積は47.84km²であり、その約6割を明治の森箕面国定公園を含む山間地域が占める。市街化区域については、約9割が住居系の用途地域である。その他については、箕面駅前、かやの中央や大阪船場繊維卸商団地地区のような商業系の用途地域であり、工業系の用途地域は存在しない。

【地域別】

(1) 西部地域

- 西部地域については、阪急箕面線が整備されている。そのため、早くから良好な市街地が形成され、商業施設の集積、文化・行政施設の立地が見られる。

(2) 中部地域

- 中部地域については、国道171号、国道423号、グリーンロードが交差する交通の要衝であり、かやの中央及び船場地区を中心とした市街化が進んでいる。また、市立病院をはじめとした全市的な保健・医療・福祉拠点が集積している。

(3) 中部地域

- 東部地域については、大型住宅地や学術拠点の立地が見られる。また、国道171号を中心とした郊外型店舗の立地も進んでいる。

(4) 北部地域

- 北部地域については、地域の大半が樹林地である。一方で、箕面森町のまちびらきによって、人口の定着が進んでいる。

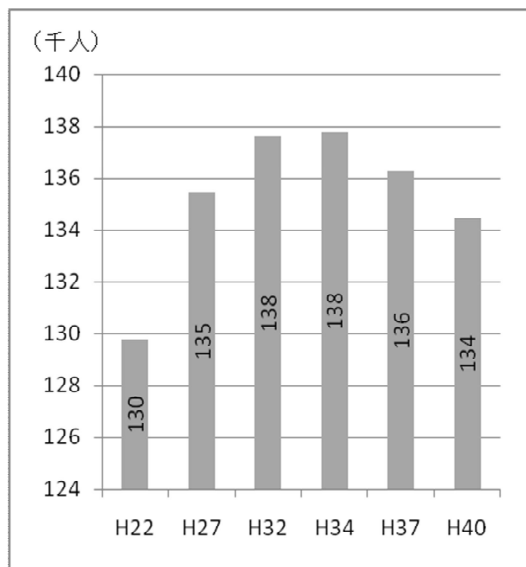
(5) 中央山間地域

- 中央山間地域については、広大な山間・山麓地域であり、豊かな自然景観が箕面市のシンボルとなっている。

2. 将来人口

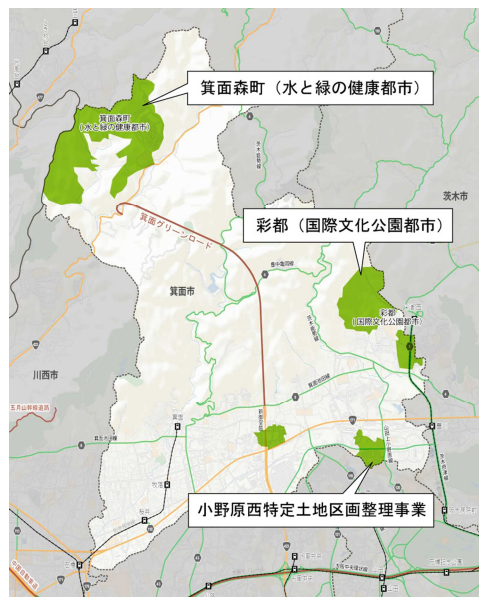
【人口推移】

- 将来人口については、箕面森町、彩都、小野原西地区の新市街地プロジェクトによって、北部地域及び東部地域の人口が増加するため、平成 34 年（2022 年）まで人口の増加を見込んでいる。平成 34 年（2022 年）での人口は、現在よりも約 8 千人多い 138 千人と推計される。
- ただし、それ以降は人口減少が予測され、平成 40 年（2028 年）には 134 千人になると推計され、その後も平成 42 年（2030 年）まで同様の傾向が続くと考えられる。



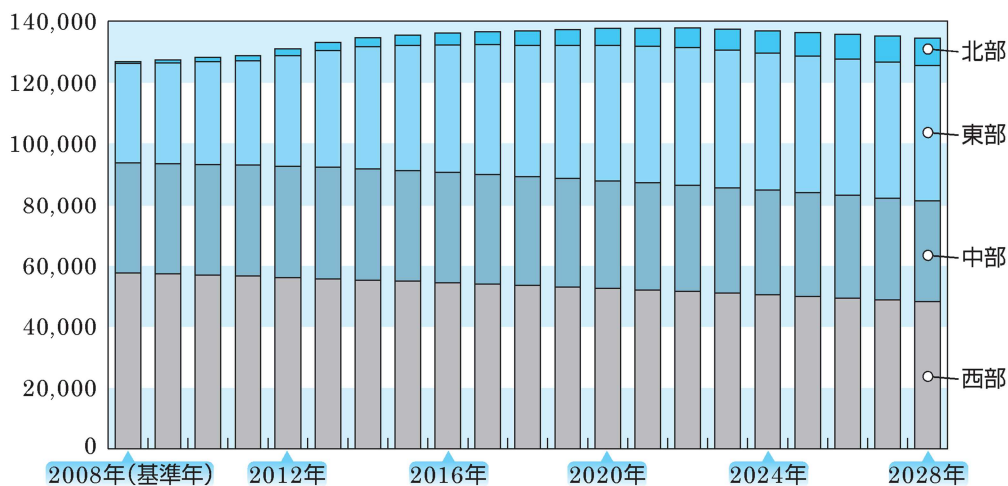
資料：次期総合計画策定のための人口推計調査

図 箕面市の人口推移



出典：箕面市地域公共交通総合連携計画

図 新市街地プロジェクト



出典 第五次箕面市総合計画 前期基本計画

図 地域別人口の推移（推計）